

特集 子ども議会…P2~P5

みんなの GIKAI

町に届け！ 私たちの想い

おおくま議会だより第79号
2026年（令和８年）11月１日発行

写真：子ども議会

次代を担う子ども議会が 町の未来を語る

大熊町の未来を担う子どもたちに議会の仕組みや、まちづくりに関心と理解を深めてもらうことを目的に、10月７日（水）子ども議会が開催されました。

学び舎ゆめの森８年生５名がそれぞれの想いや自身の考えを定例会本番さながらの一般質問を模擬体験しました。

子どもたちの柔軟かつ積極的な質問内容を紹介します。

町内の防犯灯設置と点検の見直しについて

町民や中学生が日没後も安心して通行できるよう質問します。校内アンケートでは6割の生徒が夜間の外出に不安を感じており、防犯灯の未設置や故障放置による事故や防犯上の懸念があります。

❶実態調査について

主要道路や駅周辺における防犯灯の設置・故障状況を、現在どのように把握・点検していますか。

❷設置基準と不点灯への対応について

暗い夜道を安心して歩けるまちにするため、防犯灯がない区間への新設や故障箇所の修繕に関する見通しをお聞かせください。



後藤（ごとう）　愛琉（あいる） 議員

町長　防犯灯の設置状況および故障の有無についての把握・確認方法ですが、担当職員が定期的に点検や設置が必要な箇所の確認を行っています。

防犯灯の新設や修繕の見通しでありますが、町では防犯灯設置要綱に定める設置基準に基づき新設、交換等の工事を実施しています。



中川（なかがわ）　明都（みんと） 議員

大熊IC周辺整備計画における交通利便性とバス利用について

町民の移動改善と来訪者の環境づくりを目指し、2030年度開業予定の道の駅における交通機能について質問します。

❶高速バスの乗降対応について

仙台・東京方面への乗降ができるバスターミナル機能を持たせるのか、現在の検討状況をお教えください。

❷町内交通との連携について

高速バス下車後、大川原地区などへスムーズに移動できるよう循環バスのダイヤ調整等の工夫をどう計画していますか。

❸待ち時間や利便性への配慮について

屋内の待合室やリアルタイム運行情報モニター等の設備を導入する予定はありますか。

町長　道の駅には高速道路から直接入れる駐車場と一般の町道から入れる駐車場を備えるとともに高速バス、循環バスの停留所を設置することとなっております。

町内交通との連携については、高速バス会社との今後の協議の中で検討してまいります。

生活循環バスのダイヤやルートについては利用者へのアンケートの結果、町内の住宅や施設の整備状況等を踏まえ調整や見直しを行っております。

バスを待つ際の屋内の待合室やリアルタイムの運行情報モニター等の設備については今後検討してまいります。

大野駅東側エリア等の住宅整備と子育て支援住宅の推進について

子どもたちが長く安心して暮らせるまちづくりを目指し、大野駅東側をはじめとする今後の住宅整備と子育て世帯向け住宅の運用方針について質問します。

❶子育て世帯向け住宅の導入について

令和8年度に整備予定の大野駅東側エリアにおいて、就労者向けだけでなく、増加する子育て世帯に応える子育て支援住宅やファミリー向け住宅を意図的に配置・誘導するお考えはありますか。

❷優先枠の確保について

ゆめの森の児童生徒数増加を踏まえ、今後の新規住宅整備において子育て世帯が優先的に入居できる枠組みや支援策をどのように講じていきますか。



塚村（つかむら）　柔（じゅう） 議員

町長　大野駅東エリアへの住宅は、民間事業者へ建設から運営まで行っていただくため、子育て世帯専用の住宅は難しいと考えております。

ただし子育て世帯が生活できる広めの間取りの住宅も作っていただくように民間事業者へ要望していきます。

今後も子どもたちと子育て世代の皆様が、夢と希望を持って安心して暮らし続けられるまちづくりに向け各種施策に取り組んでまいります。



本番さながらの議会風景

新しい運動公園への屋内プール設置について

学び舎ゆめの森8年生 議員

現在ゆめの森にはプールがなく、町外施設を借りて水泳授業を行っていますが、移動時間による学習時間の圧迫や児童生徒数増加に伴うレーン数・回数の減少が懸念されます。また県内の子どもたちの運動不足や肥満傾向も課題です。天候を問わず活用できる温水プールは、授業のみならず町民全体の健康・交流拠点になると考えます。

❶新運動公園でのプール設置の検討状況について

新しい運動公園の整備計画において、プール施設の設置について現在どのような議論や検討が行われていますか。

町長　質問のとおり学び舎ゆめの森にはプールが無く、近隣町村の施設を利用させていただきながら水泳の授業を実施しております。

プールを含めどのような施設が将来の大熊町に必要かについては、今後の町民ニーズや社会情勢等を踏まえながら検討してまいります。



柏舘（かしわだて）　叶望（かのん） 議員

海岸地域の復興と利用再開に向けた見通しについて

子どもをはじめ町民が大熊の海に親しみ思い出をつくれる未来を目指し、沿岸地域の復興状況と将来の利用見通しについて質問します。

隣町での海水浴場再開を受け、子どもたちの間でも大熊の海で遊びたいという思いが高まっています。特定帰還居住区域での除染やインフラ整備が進む一方、安全確保など課題もある中、具体的な将来像を知りたいと考えています。

❶現在の整備状況と課題について

沿岸エリアにおける安全確保、環境整備、インフラ復旧の現状と主な課題をお教えください。

❷海に入れるようになるまでの見通しについて

町民や子どもたちが海辺に立ち入ったり、海水浴などを楽しめるようになるためのスケジュールや時期の目安をお教えください。

町長　震災前は町内には熊川海水浴場があり、夏には町民の憩いの場となっておりました。今後の海に入れるようになるまでの見通しとしては、2029年12月には特定帰還居住区域の避難指示が解除される予定でありますので、沿岸部までは行く事は可能となります。

ただし水遊びや海水浴場として利用できるのかは調査が必要であると考えます。

子ども議会を傍聴してみて

子ども議員の堂々とした一般質問を傍聴していたみなさんに感想を伺いました。

後藤　仁美さん

多くの人の前で、一般質問する姿を見て成長したことに感動しました。

また自分の地域をより深く考えるきっかけになったことがとてもよかった。

この機会をいただいて保護者として感謝しています。

塚村　剛さん

学校で学んだ事だけでなく、政治について身近に感じる機会をいただき、子ども達も勉強になったと思います。

浅川　恵美子さん

町執行部全員の出席のもとでの開催はすばらしいと思いました。

子ども達も良い経験ができたと思います。



瀧　梓乃さん

子ども達がこれほど町の事に関心を持っていることに驚きました。

保護者

7月に転校して来たばかりです。

私も町の事を知ることができて大変良い機会となりました。

児童・生徒は震災後に生まれた子ども達なので意見として大事にしてほしいと思います。

藤井　雅さん

普段学校で見ている姿と違った印象でした。町のことを自分のこととして堂々と質問したことが頼もしかったです。

また子どもたちの自由な発想がよかったです。

永井　健一郎 先生

子どもたちは緊張もあったが、練り上げた質問を落ち着いて堂々と発表しました。

震災の経験はないが、普段生活していての気づきが町の復興の切り口になると感じました。

武田　遼太郎さん

子どもが政治や地域への思いを議会に伝えるという場がない中で実際に議会を体験しているということに感動しました。

この経験は将来に役立つに違いないと思いました。

出席議員紹介



緊張がとけてホッとしたぁ

【前列右から】
柏舘　叶望　議員
後藤　愛琉　議員
中川　明都　議員
鈴木　心絆　議員
塚村　柔　議員
菅波　瑠那　議員
【上段】
仲野　剛　議長

学校を代表し志賀校長からの感想



志賀　仁　校長

子ども議会への参加を通して、子どもたちが町の現在や未来を「自分ごと」として考え、真剣に意見を伝える姿に大きな成長を感じました。

自分たちの視点から意見を出し、対話する経験は、まちへの愛着を深めるとともに、社会全体のWell-beingを考える学びにもつながったと感じています。

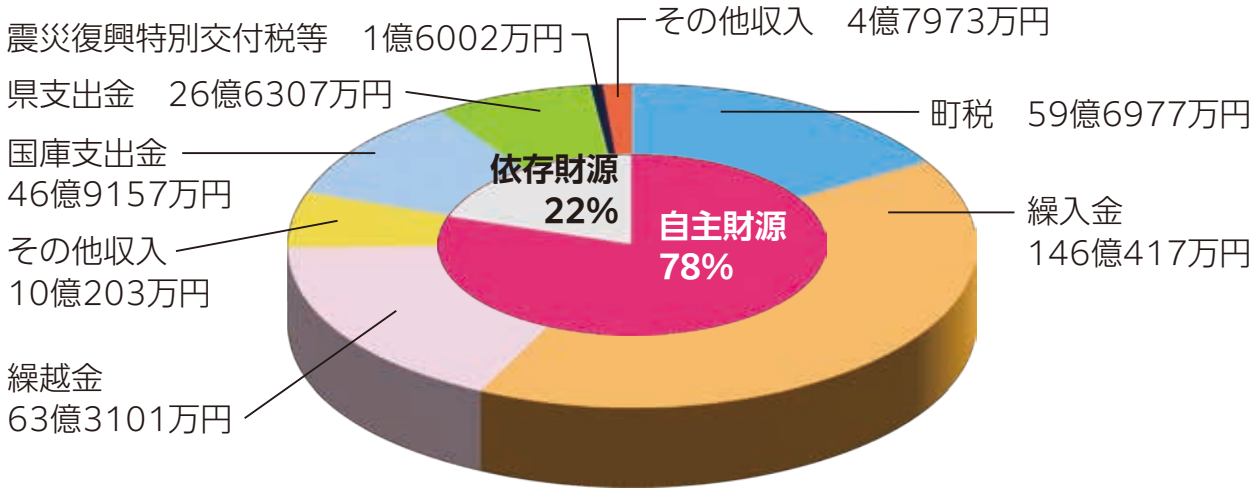
貴重な機会を設けていただきました議会、町執行部の皆様に心より感謝申し上げます。

令和７年度決算認定

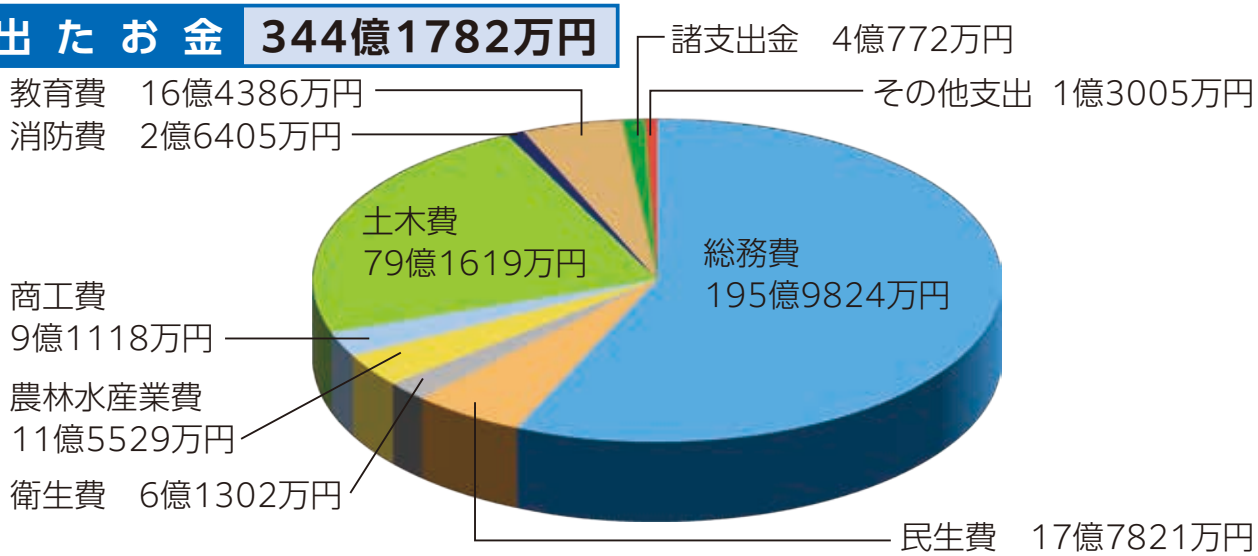
町から出たお金は344億円

令和８年第３回定例会は９月９日から18日までの10日間で開催されました。令和７年度一般会計および特別会計決算認定、令和８年度一般会計および特別会計補正予算など35議案が提出され、全議案とも原案通り可決されました。
今回の傍聴者は24人でした。

入ったお金　359億137万円



出たお金　344億1782万円



特別会計支出　決算合計：35億7648万円

会　計　名	収入総額	支出総額
坂下ダム施設管理	9005万円	7020万円
国民健康保険	19億7673万円	18億9237万円
奨学資金貸与	880万円	869万円
環境保全公共下水道	1億5896万円	1億2992万円
農業集落排水	1億8686万円	1億7541万円

会　計　名	収入総額	支出総額
工業団地造成	1億1376万円	1億1366万円
介護保険	11億7533万円	11億3475万円
後期高齢者医療	4487万円	4435万円
霊園管理	714万円	713万円

（万円未満四捨五入）

決算審査監査報告

効率的な財政運営に努めるべき

代表監査委員より決算および基金運用状況などの意見書が提出されました。主な内容を報告します。

財政調整基金について　令和７年度現在約93億5177万円、その他目的基金が約970億3453万円と潤沢な財源を抱えながら、健全な財政運営を進めていると言える。

〇一般会計について　歳入歳出は前年度と比較してどちらも減少している。引き続き財源の確保や財政基盤の安定に努められたい。

〇不用額について　前年度から減額しており、改善されていることは一定の評価ができる。今後も継続して取り組まなければならないため、職員一人ひとりが財務規則を熟知され、効果的効率的な予算編成・執行に努められたい。

〇補助金交付について　財政援助団体などの補助額はその積算を明確にし、各団体の運営状況や収支状況を考慮して、必要最低限を交付すべきである。各団体の補助金が効果を十分に生み出せるような事業の実施を望むものである。

〇基金について　設置された本来の目的を再確認し、活用可能な基金においては積極的な活用を図り、住人サービスの向上へ反映されたい。

当町は長期間にわたり健全な財務体質を維持している。健全な財政運営は自治体運営の要であり、引き続き費用対効果を検証する中で経費削減を図り、効果的な財政運営に努められたい。

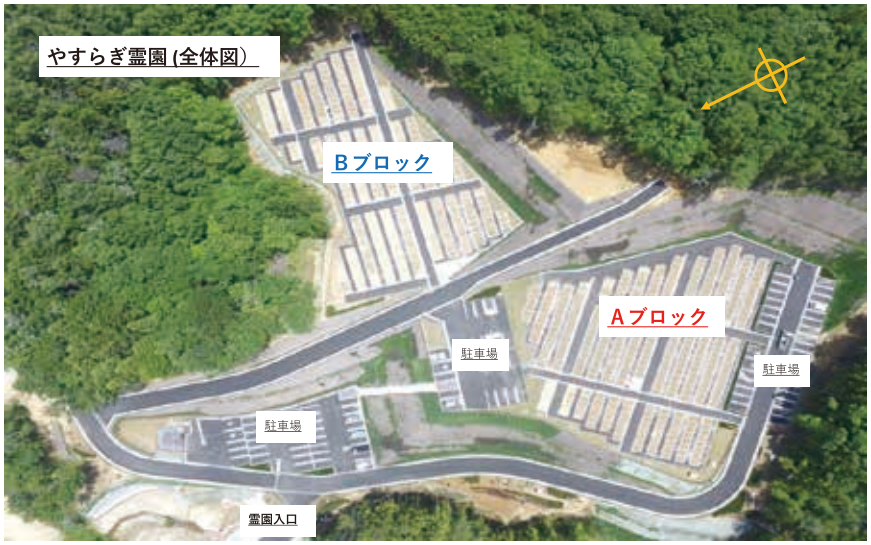
やすらぎ霊園新規申し込み5件

第３回定例会にて令和７年度決算の審査を行いました。その中から主な質疑をお知らせします。

やすらぎ霊園

問　分譲区画はＡとＢブロックに分かれているその違いは何か。

答　墓石の型によって分譲区画が異なる。Ａブロックは和型墓石、Ｂブロックは洋型墓石となっており、比較的和型が多いためＡブロックの申し込みが多い。



洋型墓石も増えています

問　令和７年度の新規の利用区画は何件あったのか。

答　Ａブロック２件、Ｂブロック３件の計５件の新規申し込みがあった。

コミュニティ

問　大野南住宅エリアは、地域コミュニティが発足したと聞くが、原住宅エリアについてはどうなのか。

答　原住宅エリア居住者からはあった方が良いとの声は上がっているが、まだ発足には至っていない。しかし近くコミュニティ団体を立ち上げる動きはある。

ツキノワグマ対策

問　令和７年度はどのようなクマ対策を実施したのか。

答　有害狩猟鳥獣捕獲隊による通常の巡回に加え、目撃情報が寄せられた現場での痕跡確認を実施した。またクマ出没に備えクマ用ワナを購入した。

問　現在の猟友会構成メンバーも高齢化しているが、今後猟友会の育成を検討しているのか。

答　現会員と協議しながら若手育成に取り組んでいく。

新たないこいの場 まもなく開園

第３回定例会にて令和８年度補正予算の審査を行いました。その中から主な質疑をお知らせします。

ふれあい広場

問 オープニングイベントを企画中とのことだが、具体的にどのような内容なのか。

答 ゆめの森の児童・生徒にも参加してもらう計画であるが詳細については現在検討中である。

問 オープニングには地域住民の参加は考えていないのか。

答 地域の方々の参加可否についても検討していく。

給食センター

問 放射線測定器導入の理由は。

答 食材を測定し安全安心を確保するためである。将来的には町内で生産した食材を使用することを考えての導入となった。

　また環境省が帰還困難区域周辺での放射線測定を推奨しているためでもある。



笑顔あふれる公園に

町内循環バス

問 町内循環バスとは別に、マルト大熊店利用者向けのバス運行はできないのか。

答 運行可能かどうか検討していく。

魅力発信事業

問 どのような事業内容なのか。

答 風評被害払拭や交流人口拡大を目的に地域の伝統や魅力を情報発信するための事業で首都圏等から参加者を募って体験ツアーや町のPR活動を行う。

語り部育成

問 どのような育成方法なのか。

答 曖昧になっている記憶を正確に語り継ぐための基礎となるシナリオの作成を委託事業で行い、その後シナリオを用いた語り部の育成を行う。

スポーツ活動支援

問 どのような競技種目を支援するのか。

答 本年度に作成した町スポーツ推進計画において「する、みる、ささえる」を掲げている。

　町内に本拠地を置き、まちづくりに関する連携協定を締結した女子サッカーチーム運営を支援する。今後は包括連携協定を結び復興やまちづくりに協力していただく予定である。

人権擁護委員

人権擁護委員の推薦に全会一致で同意しました。

任期は令和９年１月１日～３年

石橋　裕子さん　【住所】熊字滑津

宇佐見　忠さん　【住所】熊川字久麻川

植杉　文子さん　【住所】熊字新町

町政を問う 一般質問

定例会２日目は３名の議員が復興への課題をとらえて質問しました。
なお質問動画はQRコードからご覧になれます。

一般質問動画
視聴はこちら



廣嶋（ひろしま） 公治（こうじ） 議員

問 国際認定・規格の取得を目指す町内企業の支援を

廣嶋 町は2050ゼロカーボン宣言を行い、町民や事業者に推進補助金を交付している。

現在工業団地や産業団地に進出した企業や進出を予定する企業が取得を目指す取り組みに、申請手続き相談や経費の補助を支援することにより更なるゼロカーボン宣言の実効性が高められると思う。

町長 国では地域ぐるみでの脱炭素経営促進モデル事業、ものづくり補助金等を通じた支援が行われ、県でも県内企業の脱炭素化推進事業補助金が整備されている。

町は既存の国、県等の支援制度をスムーズに案内できるPR、相談窓口の周知・連携体制の強化を進め本補助金の必要性について前向きに考えていく。

問 給食を活用した地域還元について



渡辺（わたなべ） 誠（まこと） 議員

渡辺 来年4月開業に向け大野幼稚園跡地に給食センターの整備が進められている。給食を活用して地域に還元できることはないか。

例えば、給食の試食を通して子どもと町民、町民同士の交流の場を設ける。さらに自らの健康を保つために食生活を見直すきっかけにするなど、食育の推進の一助になると考える。

教育長 稼働後、保護者や地域の方々と園児、児童生徒が一緒に給食を食べる給食交流会の開催を想定しており、これを通じて子どもと町民、町民同士の交流を図っていく。

単に食事の提供にとどまらず地産地消の推進、食生活の改善のきっかけ、さらには地域コミュニティの強化などの効果が期待できる。

学校給食センター単独ではなく、園、学校と一体となって活用し、学校給食から町の食育へと発展させていきたい。



武内（たけうち） 正則（まさのり） 議員

問 消防団にドローンを導入すべき

武内 町は山林地帯や帰還困難区域を抱えており、災害発生時には消防団員が現場の状況を正確かつ安全に把握することが極めて重要である。特に夜間や団員の立ち入りが危険なエリアにおける初期状況の把握において、ドローンは絶大な効果を発揮すると考える。

消防団にドローンの導入やドローン隊の組織化、操作講習を具体的に検討すべきではないか。

町長 森林災害などが発生した場合、限られた団員数で効率かつ安全に消防活動を行うには、ドローンの活用は有効であると考える。今後消防団の意向などを確認しながら導入の検討をする。

武内 町独自の導入ではなく、町内のドローン業者や実証実験業者などと災害時協定を結び、災害時に即応できる体制を整えるべきではないか。

町長 災害時協定については、町内事業者などに対し、どのような機体や技術を有しているか調査を行い、その結果をもとに検討する。

全員協議会

7月16日と8月25日の全員協議会にて各課より説明がありました。説明要旨と主な質疑について報告します。

太陽光発電設備の規制条例の制定へ

説明要旨　全国各地で太陽光発電設備の設置に伴う景観悪化や生態系への悪影響に伴うトラブルが深刻化しています。太陽光発電設備の乱立による町の再建、農業への支障が懸念されることから町独自の条例を定めることとしました。

主な質疑

問　事業者は届出を行う前に行政区に対して、太陽光発電設備等について説明会を行わなければならないとあるが、行政区ごとの開催は困難であるため、近隣住民への説明会開催のみでいいのではないか。

答　広く周知しておくことが大事であると考えているため、一部の方だけ知っていたとならないように、近隣住民だけでなく行政区にも説明会を開催したい。今後、行政区長にも意見を伺う予定である。

問　発電事業を終了するとき原状回復に努めるとあるが、原状回復がされずに放置されるおそれがある。法的に対応できるよう対策を図るべきではないか。

答　条例に明確に記載するという方向で検討していく。



事業者は責任をもって管理を

町診療所の診療時間拡充について

説明要旨　町診療所は週２回火曜日と木曜日の午前中の診療体制で、住民の急な体調不良や慢性疾患の定期受診など十分に応えきれていない状況です。

　常勤医師を確保することになり、10月より週５日月曜日～金曜日、午前中と午後も診療を実施します。通常診療、予防接種に加え、新たに健康診断も実施します。

主な質疑

問　新たに健康診断とあるがどのようなことか。

答　主に考えているのは会社の健康診断である。

　現在町内に事業所が増えている状況で、診療所で健康診断が出来ないかとの問い合わせがあり、今後対応していければと考えている。

産業厚生常任委員会

バイオガスプラント施設と消防ドローン隊を視察

高松市バイオガスプラント

7月28日香川県高松市のバイオガスプラントを視察しました。この施設は、食品廃棄物（うどん残渣等）をメタンガス発酵設備に送り、メタンガスを利用し１日３トン処理ができ発電量は１日600キロワットになります。発電した電気は電力会社に売電しています。食料の残渣を利用することで、廃棄物処理コスト低減にも役立っています。

小豆島町消防ドローン隊

小豆島町消防ドローン隊は消防団の機能強化を図るためドローンを活用した活動を実施しています。

上空から広範囲を調査できる点はかなり有効です。



廃棄物を有効に

広報公聴常任委員会

町村議会広報研修会に出席

８月28日、東京都の渋谷公会堂で行われた町村議会広報研修会に出席しました。

大熊町議会は議会活動を町民の皆さんにお伝えしようと年 4 回議会だよりを発行しています。「読まれる」議会だよりを目指して毎回、試行錯誤の連続です。

研修会では第1部で「住民と議会をつなぐ広報デザイン-王寺町議会広報紙のリニューアルその狙いと効果－」、第２部で「議会広報紙のビフォーアフター紙面を見直す、効果的なテクニック」、第３部で「山形県川西町議会における議会広報の取り組み」についてそれぞれ3人の講師が講話しました。

編集方針の設定、町民参加、町民目線、読みやすいレイアウトなど改めて多くの事を学んできました。



レベルアップを目指して

■発行／福島県大熊町議会　〒979-1306 大熊町大川原字南平1717　TEL0240-23-7840　■編集／大熊町議会広報公聴常任委員会

団体演技やリレー 鬼ごっこを楽しく

おおくま一輪車クラブ

一輪車の楽しさ、凄さを多くの人たちに知ってほしい、また仲間や町の人たちと一緒に練習をして交流をしたいとの思いで、学び舎ゆめの森、児童クラブ、保護者とおおくま一輪車クラブを作りました。現在の参加者は子どもや保護者を含めると20名以上となります。



みんな揃っていくよ～



活動は月に２回、主に平日の18時30分から20時30分まで学び舎ゆめの森アリーナで行っています。

月に１回は福島市の余目一輪車クラブから佐藤菜花監督（世界チャンピオン輩出）を招いて基礎からの演技指導まで行っています。

クラブ所属者の多くは一輪車を始めて間もないので、危ない練習はしていません。息を合わせての団体演技やリレー鬼ごっこなどをみんなで楽しく練習することをモットーに活動しています。

代表　橋本　陽一

議会を傍聴しませんか　12月定例会は9日からの予定です

議員と懇談しませんか

皆さんのコミュニティ活動にお伺いし、懇談させていただきます。ご希望があれば議会事務局までお問い合わせください。

議会事務局　☎0240－23－7840

広報公聴常任委員会

委員長　渡辺　誠
副委員長　島原健二郎
委員　渡部友彦
委員　石井和弘
委員　武内正則
委員　阿部光國
委員　廣嶋公治
発行責任者　仲野　剛

編集後記

今回の特集ではゆめの森子ども議会の模様をお伝えしました。

子どもたちが真剣な眼差しで質問に立つ姿は、大熊町の新しい物語の始まりをはっきりと予感させてくれます。

自分たちの暮らす町を見つめ、一生懸命に言葉を紡ぎ、堂々と意見を述べる。その言葉の持つ力強さと頼もしさに、深く心を動かされました。

子どもたちが描いた未来のページを、共にしっかりと形にしていくことが私たちの使命だと感じる子ども議会となりました。

渡部　友彦